

表3.1 ごみ減量・資源化施策の評価結果について

『資料1 現行計画の進捗状況の評価及び課題の抽出・整理』 「表3.1 ごみ減量・資源化施策一覧」

★は重点施策

施策		重点	具体的な施策	取り組み状況	評価結果	
1 ごみの減量と資源化の推進	1 ごみ発生抑制の推進	1) 啓発・情報提供活動の充実	啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> 『広報かがわ』に「ごみ処理量の速報値」を掲載（毎月・R4.4月号で終了） 特集の他、ごみ減量コラム等を掲載 『ごみ減量情報紙』（第1～14号）を町内会回覧、全戸配布 のぼり、ポスターの町内会での掲示 ホームページでの啓発 ごみステーションでの早朝啓発 環境イベントでの啓発 	○	
		2) 発生抑制行動に対する取組の推進	レジ袋削減の取組	<ul style="list-style-type: none"> H27.11月に締結したレジ袋削減協定に基づき、消費者協会・締結事業者と啓発活動を実施している 	○	
			剪定枝粉碎機貸出事業	<ul style="list-style-type: none"> H29から実施 H30.7月の剪定枝・草の分別収集開始後は、利用者が減少している 	△	
			リユース食器利用推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業をH29に実施（1件交付） 食器の回収などに手間がかかることから、申請が少なかったと考えられる。 	×	
			3) 生ごみ・食品ロス発生抑制の取組	★ 食品ロス削減に向けた食べきり運動	<ul style="list-style-type: none"> H28.11月「加古川市おいしい食べきり運動」協力店制度を開始 令和4年4月現在、199店舗 	○
			水切り等による生ごみの減量	<ul style="list-style-type: none"> ごみステーションでの早朝啓発や環境イベントでの水切り器や水切りネットの紹介、配布 	○	
			生ごみ処理機等、段ボールコンポストの普及促進	<ul style="list-style-type: none"> 電動式生ごみ処理機、生ごみ処理容器の購入補助 段ボールコンポストのモニター制度による市民への無料配布 	○	
		4) 指定ごみ袋制度・ごみの有料化の検討	★ 制度調査、導入の検討	<ul style="list-style-type: none"> R3.6月から、家庭系燃やすごみについて指定ごみ袋制度を導入 	○	
	2 家庭系ごみの減量・資源化の推進	1) 分別の徹底		啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> エコクリーンピアはりま稼働に伴い『「資源物」と「ごみ」分別の手引き』を発行、全戸配布 分別アプリの導入 出前講座、イベント等での啓発 	○
				集団回収による資源物回収	<ul style="list-style-type: none"> 紙類・衣類の回収に対し、1kg7円の奨励金を交付 登録団体数は微減だが、回収量は減少傾向にある 近年は、コロナ禍による活動自粛により回収量が激減している 	△
2) 資源化の推進			使用済み小型家電の回収	<ul style="list-style-type: none"> 市役所の他、市民センター・公民館に回収ボックスを設置 協定を締結している宅配回収業者リネットジャパンリサイクル株式会社を案内 	○	
			紙類回収回数の増加	<ul style="list-style-type: none"> H30.1月から、回収回数を月2回に増加 	○	
			食品用トレイなどの資源物店頭回収の実施	<ul style="list-style-type: none"> 市内スーパーマーケット等で実施されている資源物回収について、市ホームページで紹介 	○	
3) リユースの推進		★ 家庭から発生する剪定枝の資源化		<ul style="list-style-type: none"> H30.7月から分別収集を開始 当初は、季節により月1～2回としていたが、収集量が多いことから月2回に統一（R2.12月～） 	○	
			不用品交換情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> リユース情報誌「ぼ・と・ん」を毎月発行していたが、掲載件数・成立件数の低下によりR3.12月号をもって廃刊 R3.10に協定を締結した株式会社ジモティーのインターネット取引サイトの紹介 	○	
	粗大ごみ戸別収集回収物のリユース推進		<ul style="list-style-type: none"> リサイクルセンターでは未実施 エコクリーンピアはりまでのリユース品提供の計画あり 	△		

施策		具体的な施策	取り組み状況	評価結果		
1	3 事業系ごみの減量・資源化推進	★	組成調査、業種別ごみ減量アクションプランの策定	・パターン数が多くなりすぎることから、業種別の組成調査は実施せず。クリーンセンター搬入時にごみの展開検査を実施	—	
		★	啓発事業	・委託による事業所訪問を実施 ・事業所向け啓発リーフレットを年1回作成し郵送 ・R4.1月『事業系ごみ処理マニュアル』を発行し送付	○	
		★	指導事業	・展開検査にて不適正な排出があった場合は、排出事業者を指導	○	
		2) 資源化の推進		機密文書資源化事業の促進	・H29.1月から実施し、事業所訪問啓発の際の案内などにより定着	○
				オフィス町内会の推進	・複数事業者によるオフィス町内会の設立による資源物回収ボックスの設置補助を実施 ・申請のあった2件に交付	△
				事業系剪定枝の資源化	・H28.4月から実施 ・コロナ禍前は、年間で4,500トン前後を資源化	○
2	1 収集・運搬	1) 安全で効率的な収集の実施	★	効率的な収集	・地図情報システム等での収集地区やごみステーションの適正管理 ・効率的な収集ルートの確立	○
				安全な収集	・収集作業中の作業員や通行人、周辺住民に悪影響を及ぼさないような安全性の確保	○
				資源物の持ち去り防止	・市・委託によるパトロールの実施 ・必要に応じた関係機関との調整	○
	2) 排出困難なケースへの対応		ごみ出し支援の実施	・ごみステーションに自らごみを持ち出すことが困難な一人暮らしの高齢者を対象にした「さわやか収集」を実施	○	
		★	適正処理困難物、在宅医療に係る廃棄物への対応	・適正処理困難物、有害物、危険物等について、処理相談窓口や販売店に依頼するよう周知 ・在宅医療廃棄物について、適正な排出方法を周知	○	
	2 中間処理・最終処分	1) 低炭素で効率的な処理の実施		低炭素で効率的な中間処理	・粗大ごみの3R推進による処理量抑制、二酸化炭素排出量の削減を図る	○
				熱エネルギー回収	・ごみ焼却時の熱エネルギーによる発電を施設内で利用 ・発電した余剰分の売電	○
		2) 資源化の推進		中間処理後の資源化	・焼却飛灰はセメントの原料として資源化 ・燃やさないごみ等から鉄・アルミ等の金属類の抽出 ・小型家電からの希少金属の回収	○
		3) 広域処理開始後の施設		今後の施設計画	・新クリーンセンターは、令和4年度より解体撤去工事を開始 ・リサイクルセンターは、破碎処理が終了。今後、施設としての機能縮小について検討	○
	4) 最終処分計画		今後の最終処分	・大阪湾フェニックスへの埋め立て処理（策定中の第3期計画の動向を注視）	○	
	3 災害時	1) 災害時のごみ処理対策の実施		大規模な災害に備えた処理対策	・災害廃棄物処理計画の策定を検討	△

施策			具体的な施策	取り組み状況	評価結果	
3	進 ま ち づ く り の 推 進	1) 不法投棄の防止	★	パトロールの強化	・不法投棄の多い、市の指定する地区を中心に巡回 ・全域で不法投棄物の回収を実施（年100回）	○
			★	地域との連携	・地域からの要望による不法投棄禁止看板の配付 ・不法投棄情報の提供受付	○
		2) 環境美化の啓発		環境美化の啓発	・環境月間等の美化キャンペーン ・地域で実施する一斉清掃に対するごみ袋支給等の支援	○
				美化ボランティアの育成	・アダプトプログラムのPR ・市民参加による地域の環境美化の推進	○
	調 査 し た 行 動	1) 情報発信の展開	★	様々な手段を通じた情報発信	・広報紙や町内会回覧などの紙媒体の活用 ・アプリやホームページなどによる発信 ・出前講座やイベントなどの対面式の発信 ・指定ごみ袋への啓発文の印刷	○
			★	外国人等への情報発信	・「収集日程表」「ごみの分け方」の英語版を作成し、ホームページに掲載	○
			★	事業者に向けた情報発信	・事業者向けパンフレットやリーフレットの発行 ・職員の他、委託による事業所訪問の実施	○
		2) 環境に配慮した事業所の拡大		環境配慮率先型店舗の拡大	・「加古川市おいしい食べきり運動」協力店への登録 ・「加古川市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定」締結事業者による啓発 ・店頭における資源物の独自回収	○
	環 境 教 育 の 推 進	1) 環境教育・学習の充実	★	ごみ処理施設の見学受入	・R3年度まで、新クリーンセンター、リサイクルセンターでの見学を実施 ・R4年度から、エコクリーンピアはりまでの受入を実施	—
			★	学校における環境学習	・主に小学4年生を対象に出前講座を実施 ・家庭でのごみ出しからごみ減量を意識してもらう「小学4年生 夏休みごみ減量チャレンジ」をR3から学校単位で実施	○
	4	1) 各種制度整備の働きかけ		国、県への働きかけ	・ごみ処理関係は特になし ・し尿処理設備の整備について、国に要望	—